

令和3年度 第1回（通算第48回）山梨県立博物館運営委員会 書面開催結果

1. 開催期間 : 令和3年6月23日（土）～9月30日（木）
2. 開催場所 : 書面により開催
3. 対応者 : 清雲委員長、小澤副委員長、笹本委員、佐藤委員、中山委員
4. 会議の次第 : (1) 審議 (2) 報告 (3) その他
※ (1) (2) について事務局より資料を提示、書面により意見を聴取した。
5. 議題
 - (1) 審議【非公開】
 - 1 「令和4年度の企画展・シンボル展について」
 - 2 「令和4年度の研究計画について」※非公開理由 : 山梨県情報公開条例第8条第1号及び第2号に規定する事項について 審議等を行うときに該当するため（指針第3条第1項）。
 - (2) 報告【公開】
 - 1 「開催済み展覧会について」
 - 2 「資料・情報委員会の開催状況について」
 - 3 「令和3年度の利用者状況について」
 - 4 「みんなでつくる博物館協議会の開催状況について」○特に意見なし。
 - (3) その他【公開】

(委員)

 - ・コロナ禍の中で、各博物館とも大変な苦労を強いられている。その中で、山梨県立博物館の動きは他館にとっても指針となるものだった。引き続き、県民のための博物館として頑張っていたきたい。
 - ・なお、森原学芸幹の日常的なフェイスブックによる広報、及びマンガによる「がんばれ！博物館のリスくん」は特筆すべき活動である。こうした日常的な活動の存在を館及び運営委員会委員としても共有し、応援したいと考える。

(委員)

 - ・資料に入館者の総数は書いてあったが、その年代別の内訳が知りたい。特に大学生や高

校生はどれくらい訪れているのか？入館者（特に若年層）を増やす方法について次のように提案したい。

- ① コロナ感染防止のための措置とは承知しているが、サブエントランスから博物館内に入るのは、メインエントランスに至る博物館の景観を見てもらえないのは勿体ない。県外から来た方が、サブエントランスについて「つまらない入口だ」と言っているのを耳にした。正面から入っても感染予防は可能ではないか。
- ② 気持ちのいい庭園も、館の北側のバリケードのために、特に初めて訪れた人は入ってはいけないと思うのではないかと？特に若い方は、博物館の庭と外観を見れば「おしゃれ！」と思い、印象がぐっと良くなると思う。庭園にだけでも若い方が多く来るように、コロナが収まったらライトアップした庭を開放してはいかがか？また、庭で写真の撮影会をするのもどうだろうか？私の息子は東京で結婚式を挙げたが、「前撮り」と言って、暮れなずむ東京駅や皇居付近で2人の写真を撮った。あるいは、芝生で赤ちゃんを遊ばせてその写真撮影会を行うことも良いのではないかと。博物館の庭園のこのような利用法を写真館などに提案し、若い人に博物館を身近に感じてもらうような仕掛けはいかがだろうか？

- ・展示の様子を映像にまとめてビデオライブラリーとし、出前授業などで生かすのはどうか。BGMを流しつつ展示品の説明をYBSなどのアナウンサーに依頼し、学芸員が展示までの苦労話や展示の一押し、また資料の歴史的価値を語る。手間も費用もかかるかもしれないが、せっきく貴重な資料を集めているので、徹底的に生かすための発想が大事かと思う。

(事務局)

- ・今後、入館者数の内訳の提示方法については検討させていただく。また、最新の情報である今年度（令和3年度〈2021年度〉）4月から8月まで、またコロナ感染防止対策のための入館制限や休館を実施していない平常時の平成30年度〈2018年度〉の展覧会入館者内訳については、別紙を参照いただきたい。
- ・夏の企画展「特撮のDNA ～ゴジラ、富士山にあらわる～」からは、感染防止に配慮した導線を考え、メインエントランスから入館できるようにした。
- ・庭園については、有効活用を今後も検討していきたい。

(委員)

- ・博物館資料取得のための歴史資料収集基金の現在の状況を教えて欲しい。
- ・コロナ禍で習得したオンライン技術を用いて、コロナ終息後もハイブリッドスタイルの講座や講演会、イベントを戦略的に取り入れていったらどうか。これまで博物館に来ていない遠方の人たちなどにも、活動を知ってもらう良い機会となると思う。

(事務局)

- ・現在、歴史資料等取得基金の残金は3億4000万円余りである。